

自然観察 NOW

NO. 91

野幌森林公園自然情報

発行：2025年10月2日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <https://voluran.com/>



今どきの植物の花を観察しよう

10月に入り、秋が深まりつつあるを感じます。紅葉の季節を迎えようとしています。こんな時期でも花を立派に咲かせている植物が多々あります。そんな植物達を幾つか観察しましょう。

アキノキリンソウ (秋の麒麟草)



キク科の多年草。茎の先に直径 1.3cm の黄色い花を多数つけます。沢山の花の形を酒が発酵する時の泡立ちに見立ててアワダチソウ(泡立草)とも呼ばれています。

アメリカセンダングサ (アメリカ梅檀草)



キク科の1年草。北アメリカ原産の帰化植物です。茎の先に多数の小さな黄色い花(筒状花)が、まるく集まってつきます。この花の集まりの外側には細長い総苞片が何枚かつき、まるで緑の花びらのように見えます。

イヌタデ(犬蓼)



タデ科の1年草。茎先に長さ2～5cmの穂状花序に紅色の小花を沢山つけます。花卉のように見えるのは萼で5つに深く裂けて花びらのようにみえます。おままごとの赤飯として使われ「あかまんま」の愛称があります。

アレチマツヨイグサ (荒地待宵草)



アカバナ科の2年草。北アメリカ原産の帰化植物です。伸びた茎頂に花径3～4cm黄色い4枚の花弁を持った花をつけます。メマツヨイグサにとっても似ていますが花弁同士が重ならず、隙間があります。

エゾトリカブト (蝦夷烏兜)



キンポウゲ科の疑似1年草。弓なりになった茎に長さ3cmの紫青色の花をまばらにつけます。鳥帽子状の花弁は萼で5個、頂萼片が兜状で大きい。花弁は2個ありますが頂萼片に囲まれて見えません。全草に毒があり、世界で最も強い毒性を持つトリカブトだと言われています。

エゾノコンギク (蝦夷野紺菊)



頭花：舌状花
20枚以下



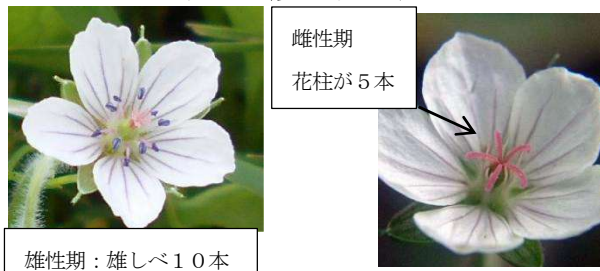
キク科の1年草。野生の紺菊。茎の上部で分枝し、枝先に直径2～2.5cmの頭花を多数つけます。頭花の真ん中は黄色い筒状花でその周りに淡い紫色の舌状花がつきます。舌状花の数は20以下で少し空いた感じがします。

カタバミ (片喰、傍喰、酢漿草)



カタバミ科の多年草。地面を覆うように広がり、小さなハート形の葉を3枚ずつつけ、葉腋から伸びる花茎に直径8mmの黄色い花をつけます。花弁は5枚。黄色い花と緑色の葉のコントラストが美しい、黄色い花の三つ葉のクローバーです。

ゲンノショウコ (現の証拠)



雄性期：雄しべ10本

フウロソウ科の多年草。花は長い花柄の先に2個つき、白色で1～1.5cmの淡紫色の筋が入っています。花弁と萼片は5枚。咲き始めは10本の雄しべの雄性期、その後花柱が5つに枝分かれする両性期、最後は約が落ちて雌性期に。(雄性先熟)

シロバナアカツメクサ (白花赤詰草)



マメ科の多年草。アカツメクサの白花品種、別名「セツカツメクサ (雪華詰草)」。アカツメクサの中に稀に白花を咲かせる株があり、どちらも花の下に葉がつきます。一方、シロツメクサは地を這うように広がり、花が小振りで花の下に葉はつきません。

ミゾソバ (溝蕎麦)



根本：白色
先：ピンク色

タデ科の1年草。花は茎の先で金平糖の様にかたままって咲きます。花びらの根本は白色、先の方はほんのりピンク色になっています。直径8mm程の花弁に見えるのは萼片で5深裂し、8本の雄しべと3本の花柱があります。

メナモミ (豨薺)



5個の総苞片がヒトデの様

キク科の1年草。茎の先に径7mm程の黄色い頭花を多数つけます。頭花は先が2～3裂した舌状花、中心部に筒状花があります。5個の総苞片がヒトデの样に見え、ねばねばしています。(ひつつき虫)

ユウゼンギク (友禅菊)



頭花：舌状花20枚以上

キク科の多年草。北アメリカ原産の帰化植物。枝先に青紫色の頭花を多数つけます。頭花の中心部は筒状化で黄色、その周辺に青紫色の舌状花が並ぶ。舌状花の数が20個以上、葉は柄がなく茎を半ば抱くのが特徴です。

参考文献：『北海道の草花』梅沢俊 北海道新聞社、『うめしゅんのさっぽろ花の観察ノート』北海道新聞社
ネット情報：フリー百科事典 Wikipedia 他

◆観察会予定 10/18 は、ボラレン主催 (参加費@200-、高校生以下無料) 当日、直接会場へ。11/8 は、ボラレンと共催
10月18日(土)「晩秋の森観察会」 10:00～12:30 野幌森林公園 大沢口入口前広場集合
11月8日(土)「秋のありがとう観察会」 9:50～12:00 自然ふれあい交流館集合 10/9～事前申込み

(文責：吉田 安正)